

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
〒 470-1192
愛知県豊田市杓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
電話 (0562) 93-2453
FAX (0562) 93-3079
発行責任者 井谷 徹

(題字 皿井 進筆)



幻のスフォルツァ騎馬像：名古屋国際会議場内にあり、レオナルド・ダ・ビンチのデッサンをもとに強化プラスチックで作製されたものです。ダ・ビンチはブロンズ像を造ることを計画しましたが、当時の技術ではできなかったそうです。第77回産衛学会に参加し、ルネッサンス期のデザインと現代の技術合作をご鑑賞ください。

謹 賀 新 年

東海地方会会長 井谷 徹



新春を迎え、日本産業衛生学会会員、東海地方会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年は、第13回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会(企画運営委員長：鎌田 隆、企画実行委員長：白田多佳夫)、第8回日本産業衛生

技術部会(企画運営委員長：土屋真知子)を東海地方でお世話させて頂きましたが、いずれの大会も記録的数の参加者を得、大成功裏に開催することができました。これも、ご参加頂いた皆様、企画、運営にご尽力頂いた皆様のおかげと感謝致しております。本年も、地方会のますますの発展のため、皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

さて、本年は、第77回日本産業衛生学会のお世話を東海地方会が担当し、2004年4月13日(火)から17日(土)の期間で名古屋国際会議場に於いて開催いたします。現在、企画運営委員会を組織し、準備を進めておりますが、昨年末時点で600題に迫る一般演題申し込みを頂いております。予定していた会場数ではプログラムを組めないのではないかとうれしい悲鳴を上げております。皆様のご協

力・ご支援に感謝致します。

学会では、「多様化する職域保健ニーズに応える」をメインテーマに、4つの特別講演、メインシンポジウム1題、シンポジウム5題、フォーラム4題、特別報告、一般公演およびポスター発表をはじめとして多くの企画を用意しています。現在、我が国では、雇用・就労形態の多様化、産業保健分野も含めた企業管理システムの変革、個人レベルでの保健要求の多様化などに伴い、職域保健ニーズの多様化が急速に進んでおります。本学会では、この変化に対応するために求められる産業保健活動について討議したいと思っております。また、17日には、作業環境測定法、健康づくりのための運動指導法の実習を含んだ特別研修会、16日には地域交流集会を企画しております。15日の懇親会も、地域の特徴を生かし、華美に走らず、楽しみつつ懇親を深められる内容にすべく準備しております。

東海地方及び近隣には、渥美・知多半島、伊勢志摩、飛騨地方、木曾路、浜名湖など多彩な魅力にあふれた観光地が沢山あります。学会の前後には、これらの観光地を訪れることもご考慮ください。

「二度あることは三度ある」のたとえ通り、第77回日本産業衛生学会に、記録的数の皆様にご参加くださることを期待し、お待ちしております。

第77回 日本産業衛生学会



第77回日本産業衛生学会 特別企画 プログラム

4月13日(火)

15:00-17:30 総会

4月14日(水)

9:00-11:00 シンポジウム1 「産業保健における疫学の役割と課題」
 11:00-12:00 特別講演I 「感染症の行方-SARSに学ぶ」
 14:20-15:20 特別講演II 「経営側から見た産業保健の役割」
 15:20-17:50 シンポジウム2 「有害化学物質の毒性評価方法の新しい展開」
 15:20-17:50 シンポジウム3 「作業関連運動器障害(WRMSD) -概念・要因・対策の新しい流れ」

4月15日(木)

9:00-11:00 シンポジウム4 「アジアにおける産業保健活動」
 11:00-12:00 特別講演III 「European Response to Diversifying Occupational Health Needs」
 13:20-14:20 特別講演IV 「産業保健サービスのあり方と専門職の育成」
 14:20-16:50 メインシンポジウム 「多様化する職域保健ニーズへの対応」
 16:50-17:20 奨励賞講演I
 17:20-17:50 奨励賞講演II
 18:30-20:30 懇親会

4月16日(金)

10:00-12:00 シンポジウム5 「健康職場-メンタルヘルスの一次予防」
 14:20-16:20 フォーラム1 「産業医に求められるスキル」(産業医部会推薦)
 14:20-16:20 フォーラム2 「産業看護職は働く人々の健康にいかに関与できるか」(産業看護部会推薦)
 14:20-16:20 フォーラム3 「作業環境評価指標と許容濃度等の活用」(産業衛生技術部会推薦、兼第9回産業衛生技術部会大会)
 14:20-16:20 フォーラム4 「これからの口腔保健」(産業歯科グループ提案)
 16:20-18:20 地域交流集会

4月17日(土)

9:50-16:20 特別研修会

学会参加費: 会 員: 早期* 8,000円 中期* 9,000円 当日* 10,000円
 非会員: 早期* 9,000円 中期* 9,000円 当日* 10,000円
 特別研修会費: 会 員: 早期* 7,000円 中期* 8,000円 当日* 10,000円
 非会員: 早期* 8,000円 中期* 9,000円 当日* 10,000円

懇 親 会: 6,000円 (平成16年2月以降7,000円)

※早期:平成16年1月31日までの登録、中期:平成16年2月1日～3月31日までの登録、当日:学会当日の申込を示します。4月1日以降のオンライン登録はできません。参加に関する事前登録は、すべてオンラインで行います。第77回学会ホームページ(<http://tosh-nct.lumin.jp/sanci77/>)から行って下さい。インターネットが使用できない場合は、事務局へご一報下さい。

特別講演

特別講演I 「感染症の行方-SARSに学ぶ」

加藤 延夫先生 (愛知医科大学学長)

わが国の感染症死亡率・罹患率は、戦後、大きく改善されました。しかし、昨今、結核やAIDSなどの再興・新興感染症問題がクローズアップされるようになりました。加藤先生は微生物学をご専門とされ、今回の講演では、その立場から、SARS流行を例に、これからの感染症問題に対する方略を示唆していただけるものと存じます。職域においても、再興感染症問題や、わが国のグローバリゼーションとともに新興感染症の流行が懸念される状況であり、本講演は我々にとっても有意義なものとして期待しています。

座長: 竹内 康浩 (名古屋名誉教授)

特別講演II 「経営側からみた産業保健の役割」

岡田 恭彦先生 (富士通経営執行役常務)

わが国の先端企業の一つである富士通は、勤務制度など働き方に関しても新しい試みがなされ、労務管理・安全衛生の側面でも、わが国の先端をいく企業であります。今回の講演では、このような企業経営陣の立場から、産業保健に対するニーズ、産業保健専門職への期待といった事柄について講演していただき、今後の産業保健の方向性についてのお考えを述べていただく予定であります。産業保健専門職にとつ

て示唆に富む内容になるものと存じます。

座長: 奥井 幸子 (岐阜県看大)

特別講演III 「European Response to Diversifying Occupational Health Needs」

Jorma Rantanen 先生 (ICOH理事長)

Rantanen先生は、フィンランド労働衛生研究所の所長を永年お勤めになられ、現在は国際労働衛生会議(ICOH)理事長として、産業保健分野で国際的にご活躍しておられる先生です。ヨーロッパは、Work sharingやSOHOなど労働制度の側面で、わが国より一足さぎを進んでいると同時に、産業保健に関しても、その重要性が職場文化として認識されている地域であります。今回は、「働くこと」の多様化が進むヨーロッパでの産業保健の現状と新たな産業保健ニーズに関して講演していただき、これからの産業保健のあり方について提議していただけるものと期待しています。

座長: 小林 和孝 (労研)

特別講演IV

「産業保健サービスのあり方と専門職の育成」

大久保利晃先生 (産業医科大学学長)

現代の産業保健活動は、従来からの法規や規則に従ったやり方だけでは対応しきれないところにきています。このような状況の中

で、大久保先生は、産業医制度、産業保健専門職の方向性を、学会のみならず広く社会の中で探ってこられました。この講演では、調査やご経験などにに基づき、これからの社会における産業保健サービスのあり方やそういう期待に応えることのできる専門職の養成に関する戦略をご紹介いただけるものと思っております。大所、高所から意見を頂戴し、今後の私たちの活動の方向を確かめたいと存じます。
座長：岩田 弘敏（岐阜大名誉教授）

シンポジウム

メインシンポジウム

「多様化する職域保健ニーズへの対応」

井谷 徹（名市大院・医）

長引く景気低迷とそこからの脱却を目指した企業経営改革、労働者の価値観の多様化、労働人口の高齢化などの要因により、我が国の雇用・就労形態、労働力構成、労働環境・内容は益々多様化が進んでいる。それに伴い職場の保健ニーズも多様化しているが、産業保健活動がそれに十分対応し得ていないのが現状である。本シンポジウムでは、河野啓子（東海大学）、井谷 徹（名市大院・医）を座長に、各シンポジストが下記の内容で話題提供をした後、職域保健ニーズの現状と産業保健の対応策について全体討議を行う。

座長：河野 啓子（東海大） 井谷 徹（名市大）

シンポジスト：

- 「職域保健ニーズの多様化と対応策」 井谷 徹（名市大）
- 「労働力の高齢化と産業保健活動」 加藤 隆康（トヨタ自動車）
- 「職域保健ニーズの多様化と産業医の対応」 埋忠 洋一（UFJ銀行）
- 「裁量労働者への産業保健サービス」 武田 繁夫（三菱化学）
- 「職域保健ニーズの把握と職場改善」 酒井 一博（労研）

シンポジウム 1

「産業保健における疫学の役割と課題」

吉村 健清（産業医大・臨床疫学）

第77回日本産業衛生学会（井谷 徹学会長）において、「産業保健における疫学の役割と課題」と題するシンポジウムを名市大院 医 健康推進・予防医学分野、徳留信寛教授と共に企画、開催することとなった。

産業保健の分野で疫学的考え方、ならびにその実践の重要性は、以前から指摘されているが、産業保健の現場において、どの程度理解され、また、利用されているかについては、疑問の残るところである。

そこで、本シンポジウムは、

- ①疫学は、産業保健現場で本当に必要とされているのか
- ②また、疫学は産業保健を推進するのに役立つのか
- ③もし、本当に疫学が現場に必要と考えるならば、現在何が問題で今後どのようにすればよいかを検討したいと考えている。

今回のシンポジウムの目的達成のため、産業現場、大学からそれぞれ二人ずつシンポジストとして以下の先生方へお願いをした。

座長：吉村 健清（産医大） 徳留 信寛（名市大）

シンポジスト：

- 「産業疫学—理想と現実の狭間で」 高橋 謙（産医大）
- 「産業現場における疫学—成功の条件」 川上 憲人（岡山大）
- 「産業現場における疫学研究実践の有用性と課題—3Mスタディ、QQプロジェクトから学ぶ」

広部 一彦（みずほファイナンシャルグループ）

「産業現場で疫学は役に立つか—保健師の立場から」

椎葉 倫代（新日鉄ソリューションズ）

シンポジウム 2

「有害化学物質の毒性評価方法の新しい展開」

那須 民江（名大・医・環境労働衛生）

第77回日本産業衛生学会では、「有害化学物質の毒性評価方法の新しい展開」に関するシンポジウムを企画いたしました。これは事務局が学会員の皆様から募集した企画案に基づいて決定されたもので、座長を慶応の大前和幸教授と私、那須が担当させていただきこととなりました。有害化学物質に関しては、「遺伝子解析も含めた最近の研究の動向」「リスク評価の方法」「特殊健康診断の見直し」に関する企画案がよせられました。最後の提案に関しては現在進行中の作業であることから、第77回の学会での取り上げを見送らせていただきました。シンポジウムではまず、タンパク質の機能を予測する新しいインフォメーションとして、またトキシコゲノミクスの分野で有用な技術として注目されている遺伝子の網羅的解析方法に関して、佐野有里先生と稲寺秀邦先生より、利点、限界等についてお話いただきます。次に、山本静護先生と川本俊弘先生より、最近注目されている2つの毒性評価方法についてそれぞれお話いただき、利点、限界等についてご講演いただきます。最後は鰐淵英機先生と那須から有害化学物質の毒性・発がんのメカニズム解明に関する新しい実験方法を紹介します。鰐淵先生より、中期発がん検査法によるアプローチからみた発がん性の閾値についてご紹介していただき、那須は遺伝子改変動物を用いた有害化学物質の毒性評価を、メカニズム解明から毒性評価に応用することについて話します。どの講演も有害化学物質の毒性評価に関するホットな情報を包含しており、学会員の皆様のご研究・ご活躍の一助となると確信しております。多数のご参加をお待ちしております。

座長：大前 和幸（慶應大） 那須 民江（名大）

シンポジスト：

- 「DNAマイクロアレイを用いたトリクロロエチレンの毒性評価」 佐野 有里（慶應大）
- 「SAGE法によるダイオキシンの毒性評価」 稲寺 秀邦（富山医業大）
- 「ベンチマークドーズを用いたクロロホルムの毒性評価」 山本 静護（日本バイオアッセイ研究所）
- 「ユニットリスクを用いた環境中有害化学物質の毒性評価方法の問題点」



川本 俊弘 (産医大)

「遺伝子改変動物を用いた有害化学物質の毒性評価」

那須 民江 (名大)

「発がん物質の閾値—中期発がん検索法による解析—」

鰐淵 英機 (阪市大)



シンポジウム3 作業関連運動器障害 (WRMSD) —概念・要因・対策の新しい流れ—

小野雄一郎 (藤田保衛大・医・公衛)

本企画では、国際的な潮流となってきた作業関連運動器障害の考え方を提示し、その概念について学会内外の共通理解を深めることをねらいとしております。特に、海外や整形外科分野の動向、作業関連性の考え方、心理社会的要因を含めた障害の多要因性、OHSMSを含む職場対策のあり方などを話題として取り上げ、作業関連運動器障害に関する今日的な新しい流れを明確にしたいと考えております。

シンポジストとテーマ(仮)は以下の通りです。整形外科分野で作業関連運動器障害の課題を積極的に取り上げて来られた福島医大の菊地教授にご参加を頂けることになりましたので、産業保健関係者と整形外科との協力のあり方についても議論したいと考えております。

なお、本企画を準備してきた車谷典男(奈良医大衛生学)先生と私が座長を担当する予定です。多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

座長：車谷 典男(奈良医大) 小野雄一郎(藤田保衛大)

シンポジスト：

「整形外科における作業関連運動器障害の考え方」

菊地 臣一(福島医大)

「WRMSDをめぐる欧州の動向」 中田 実(スウェーデンNIWF)

「作業運動器障害の企業における課題と試み」 舟橋 敦(マツダ(株))

「OHSMSによる腰痛対策」 甲田 茂樹(高知大)

「慢性化と難治化の要因」 埴田 和史(滋賀大)

シンポジウム4

「アジアにおける産業保健活動」

座長 城内 博(日本大学)、横山 和仁(三重大学)

【本シンポジウムのねらい】

近年、アジアの多くの国々で産業安全保健分野の新しい取り組みが行なわれ、中小企業も含めた自主マネジメントシステムの推進や参加型職場改善などに成果をあげるなど、注目を集めています。この背景には、経済のグローバル化と地域内協力や急速な産業構造の変化とつながり、安全・健康と環境問題への高い関心があります。現在、アジ

ア地域の産業保健分野の共通課題としては、1)安全・衛生に共通したリスクマネジメントのあり方、2)環境とストレス・人間工学に広く目配りした現場改善、3)労働災害補償の普及に伴う作業関連疾病の報告の向上、4)中小企業を含むマネジメントシステムにおける産業保健専門職の役割などが考えられます。これらはいずれも日本における最近の産業保健活動見直しとの関連も深いといえます。また、一方では多くの企業が海外勤務者や日系企業等の労働衛生対策に多大な努力を費やしています。このように、今は、アジア各国と日本国内とに連動した産業保健の進め方を検討する良い時機にあると思われれます。

本シンポジウムは、労働科学研究所教育・国際協力部吉川徹氏の提案をもとに、第77回日本産業衛生学会総企画運営委員会の特別企画として催されます。企画にあたっては本学会の労働衛生国際協力研究会のたいなる尽力がありました。具体的には、アジアの産業保健活動における多様なニーズを取り上げ、産業保健活動の力点がいまどこにおかれているかを検討します。シンポジウムでは、下記のように、4名の演者からの話題提供をもとに2名の指定発言を得て、今後の実践と研究に役立つ視点について総合討論を行います(連名の場合は○印が口演)。本シンポジウムを通して、アジア地域に共通した産業保健に関する多様化するニーズに応えるための「次のステップ」を確かめ合えることを願っています。皆様の積極的なご参加をお待ちいたしております。

座長：城内 博(日大) 横山 和仁(三重大)

シンポジスト：

「アジア諸国の労働衛生対策と日本の国際協力の進歩」

久永 直見(産医研)

「ASEAN諸国における労働衛生対策の到達点」

Chalermchai Chaikittiporn(マヒドン大学/タイ)

「韓国における産業保健サービスの現状と課題」

Park, Jungsun(KOSHA/韓国)

「国際機関によるアジア地域の産業保健支援活動」

川上 剛(ILOアジア太平洋総局)

【指定発言】

1. 「アジアにおける産業保健の地域ネットワークの構築」

○毛利 一平(産業医学総合研究所)・タナカ千恵子(産業医科大学)

2. 「アジア地域のOSH-MSと自主マネジメントの進展」

小木 和孝(労働科学研究所)

シンポジウム5

「健康職場—メンタルヘルスの一次予防—」

小林 章雄(愛知医大・衛生)

このシンポジウムでは、メンタルヘルスの一次予防として、産業保健スタッフからの「組織への働きかけ」を中心に検討することとした。構成として、渡辺直登先生には、企業における経営理念や管理方式、組織文化や風土などの組織特性とメンタルヘルスとの関係について組織心理学の立場から論じていただく。荒井稔先生には、職場不応やメンタル不全などへの専門家としてのかわりの中で浮かび上がってくる職場組織の重要性とそのあり方について論じていただく。ジャン・ドゥーソップ先生には、従業員のニーズを把握し、目標管理を設定し、実行するという産業保健マーケティングの手法をメンタルヘルスの一次予防サービスにおいてどのように展開すべきかについて論じていただく。河野慶三先生には、メンタルヘルス施策をスムーズに進めるために産業保健スタッフと、経営者や人事、ラインなどの社内ネットワークおよび外部資源などの社外のネットワークとの連携の取り方について論じていた

だ。このシンポジウム全体を通じて、労働者の健康や満足感と企業の生産性が両立し、さらに職場が活性化するようなメンタルヘルスの一次予防活動は可能であるのか、もし可能であるとするならば、そのためにはどのようなことをすべきなのかについて、参加者が多くの示唆と具体的な手がかりを得ることができるような企画になることを期待したい。

座長：栗岡 住子（住友軽金） 小林 章雄（愛知医大）

シンポジスト：

「職場の特性とメンタルヘルス」 渡辺 直登（慶應大）

「精神科医から見た職場組織とメンタルヘルス」

荒井 稔（東京臨海病院）

「メンタルヘルスにおける産業保健サービスのあり方」

ジャン・ドゥーソップ（産医大）

「産業保健担当者と企業の相互協力のあり方」

河野 慶三（富士ゼロックス）



フォーラム

フォーラム 1

「産業医に求められるスキル」

（産業医部会推薦）

斉藤 政彦（大同特殊鋼）

産業医の仕事は非常に守備範囲が広く、求められる能力（スキル）も多岐にわたります。また、業種、企業、事業場によって労働者の業務内容が異なるため、おのずと、個々の産業医の職務も同一ではありません。多くの産業医が一人勤務の状態にあり、情報の共有化が難しい状況の中、教科書に書かれている一般論だけを参考に漫然と仕事をしていると、場当たり的な対応に終始し、知らず知らずのうちに自己流に満足してしまっていることが懸念されます。中には「これでいいのだろうか？」と不安を抱きながら働いている方もいるのではないのでしょうか。近年、産業医業務の社会的重要性の高まりにつれ、各方面に対してより深い見識が求められ、内容によってはその言動に責任を追求されかねない時代となってきました。今回のフォーラムでは、各演者がそれぞれのテーマについて自分自身の経験を中心にポイントを整理して説明し、討論を通して内容を深める過程で、参加者自身が今後の産業医活動のあり方を掴み取っていただくことを目的としています。

座長：山田 誠二（松下産業衛生科学センター） 斉藤 政彦（大同特殊鋼）

シンポジスト：

「職場巡視」 小林 麻美（松下電器）

「労働・生活習慣の把握（問診票）」

廣瀬 俊雄（仙台錦町診療所産業医学センター）

「生活習慣改善への意識付け（労働時間）」 三好 裕司（明治生命健保）

「女性労働者への対応」

長井 聡里（松下電工）

「メンタルヘルス対策」

鎗田圭一郎（マツダ㈱）

「リスク管理」

森 晃爾（産医大）

フォーラム 2

「産業看護職は働く人々の健康にいかに関与できるか」

（産業看護部会推薦）

杉本日出子（豊田工機）

多様化する労働衛生環境の中、働く人の健康を守るためには産業看護職としての役割を認識し、将来を見通した活動を計画的に展開していく必要があります。

企業経営者や労働組合は産業看護職に対してどのような期待をもっているのでしょうか？私たち産業看護職に求められる実質は何でしょうか？フォーラム2で産業看護職のあるべき姿を考えたいと思います。

フォーラムテーマ：「産業看護職は働く人々の健康にいかに関与できるか」

座長：錦戸 典子（東大） 杉本日出子（豊田工機㈱）

シンポジスト：

「産業看護の専門性を生かした職場改善へのサポート」

小木 和孝（労研）

「経営者の立場から産業看護職への期待」

小出 勲夫（豊田安全衛生マネジメント㈱）

「労働組合の立場から産業看護職への期待」 小山 一男（連合愛知）

「労働生産性の向上と働く人々のQOLへの支援」

五十嵐千代（富士電機リテイルシステムズ）

フォーラム 3

「作業環境評価指標と許容濃度等の活用」

（産業衛生技術部会推薦、兼第9回産業衛生技術部会大会）

（4月16日午後2時～午後4時）

土屋 博信（名古屋市衛生研究所）

前回名古屋で開催された第68回学会においてシンポジウム「作業環境改善につながる作業環境評価」が企画された。前回のシンポジウムは、「作業環境測定法」が出来てちょうど20年目の節目を迎え、同法の評価という意味合いも含めて企画された。

その後9年が経過し、平成13年の高知での学会で産業衛生技術部会が正式に発足した今、作業環境管理について根本からもう一度見つめなおす機会として本フォーラムを設定した。昨今、根拠に基づいた医学（EBM）という意味でデータのもつ重要性が再認識されているが、労働衛生の現場では安全衛生法第65条による作業環境測定が定期的に行われている。この測定結果を評価し、改善の必要性やその効果を判定する際に基準として利用されるのが許容濃度（管理濃度）である。したがって、測定結果を左右する測定デザインや測定方法とともにその結





果を評価する際に用いられる許容濃度(管理濃度)の利用方法は、データを根拠として動く産業衛生活動に大きな影響を与えかねない重要な課題である。この課題について、経時的に入手できる貴重な現場のデータ時系列的解析を通して、評価法の検討が産業衛生技術部会を中心とする本学会で発展することを願って、本フォーラムを企画した。15年夏に出された管理濃度の改定作業に関与されたメンバーによる改定案の背景解説など会員に有益な情報を提供すべく準備をすすめている。

座長: 田中 勇武(産医大) 土屋 博信(名古屋市衛研)

シンポジスト:

- 「総論」 名古屋俊士(早大)
- 「許容濃度の設定」 武林 亨(慶應大)
- 「許容濃度の利用法」 熊谷 信二(大阪府衛研)
- 「許容濃度を指標とした作業環境測定と評価」 小西 淑人(日測協)
- 「作業管理における許容濃度利用の実際」 橋本 晴男(エクソンモービル)

フォーラム4

「これからの口腔保健」

(産業歯科グループ推薦)

中垣 晴男(愛知学院大学歯学部)

日本は21世紀を高齢社会で迎え、平均寿命や健康寿命も世界最長

を記録している。人々は健康でより生きがいのある生活の質に関心を向けるようになってきています。国も21世紀へ向けての国民健康づくり運動「健康日本21」を2000年にスタートさせ、さらにそれを支援する健康増進法も2003年より施行されました。

健康日本21は正しい生活習慣の保持と生活習慣病を重視しています。その中で「歯の健康」もあげられ、生活習慣の9領域の6番目として位置づけられ、その重要性が強調されています。

「歯の健康」はすでに15年前より開始されている8020運動の充実が唱えられています。産業保健の現場でも労働安全衛生法という有害業務に従事する現場での歯科医師による健康診断の他、歯の健康増進対策が大切となって来ます。

20歳から60歳までの約40年間を過ごす産業保健は、歯の喪失予防をはじめ8020運動の中心となります。成人の歯の健康づくりの多くは産業保健が関与しているといえます。その意味で「口腔保健」は明日の健康づくりの大きな基盤であるといえます。

以上から、本フォーラムではこれからの口腔保健を議論するにあたって、すでに活動を展開しておられる5名の講師から話題を提供いただきます。その後講師と参加者を含め、産業保健における「これからの口腔保健」について考えます。

座長: 藤田 雄三(神戸製鋼) 中垣 晴男(愛知学院大)

シンポジスト:

- 「健康組合における歯の喪失の要因」 森田 一三(愛知学院大)
- 「産業従業員における生活習慣と歯の健康づくり」 忠津佐和代(川崎医療福祉大)
- 「企業での口腔保健の展開」 加藤 元(日本IBM)
- 「海外勤務と口腔保健」 桜庭 幸夫(日本歯科医師会)
- 「生活習慣病と口腔保健」 平山富美子(明海大病院)

第77回日本産業衛生学会・特別研修会

1. 日 時: 平成16年4月17日(土)
2. 会 場: 名古屋国際会議場(名古屋市熱田区西町1-1)
3. 内 容:
 - 【講演】
 - 9:50-10:50 講演1「最近の労働衛生法制について」
松橋 正好(愛知労働局 労働衛生課長)
 - 11:00-12:00 講演2「職場における喫煙対策」
岩田 全充(トヨタ記念病院 産業医科)
 - 13:00-14:00 講演3「派遣労働者の健康管理」
松田 元(松下電工(株)四日市工場)
 - 14:10-15:10 講演4「VDT作業と人間工学」
宮尾 克(名古屋大学)
 - 15:20-16:20 講演5「職場復帰支援の現状と課題」
寺澤 哲郎(UFJ銀行 健康管理センター)
 - 【実地】
 - 11:00-12:00 実地研修A-1「作業環境測定機器による測定実習」(定員:200名)
土屋 博信(名古屋市衛研)、栗田 秀樹(藤田保衛大)、
酒井 潔(名古屋市衛研)、土屋真知子(静岡県産業環境センター)
 - 13:00-14:00 実地研修A-2「作業環境測定機による測定実習」(定員:200名)
土屋 博信(名古屋市衛研)、栗田 秀樹(藤田保衛大)、
酒井 潔(名古屋市衛研)、土屋真知子(静岡県産業環境センター)
 - 14:10-15:10 実地研修B-1「健康づくりのための運動指導法」(定員:200名)
加藤 幸久(名城大)、石川 鉄也(聖隷健診センター)、
斉藤 浩(聖隷予検センター)、橋口しのぶ(聖隷健診センター)
 - 15:20-16:20 実地研修B-2「健康づくりのための運動指導法」(定員:200名)
加藤 幸久(名城大)、石川 鉄也(聖隷健診センター)

- 齊藤 浩(聖隷予検センター)、橋口しのぶ(聖隷健診センター)
- 実地研修A-1とA-2、B-1とB-2は同一の内容です。上記A-1~B-2はそれぞれ、講演2~5と並行して行います。実地研修は定員になり次第、締め切りますので、受講ご希望の方はお早めにお申込みください。また、ご希望の内容・時間帯で受講できない場合もありますので、ご了承ください。
- 4. 参加費: 会 員: 早期7,000円 中期8,000円 当日10,000円
非会員: 早期8,000円 中期9,000円 当日10,000円
□早 期: 平成16年1月31日までの登録、
□中 期: 平成16年2月1日~3月31日までの登録、
□当 日: 学会当日の申込を示します。
- 事前参加登録は、学会ホームページ(<http://tosh-net.umin.jp/sanei77/>)からお願いいたします。オンライン登録は3月31日まで可能です。4月1日から当日までの間は登録できません。
- 参加登録に関して不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせください。
- 5. 事務局: 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
名古屋大学大学院医学研究科 労働・生活・環境保健学分野内
TEL: 052-853-8171 FAX: 052-859-1228
E-mail: sanei77@med.nagoya-cu.ac.jp
ホームページ: <http://tosh-net.umin.jp/sanei77/>
日本医師会認定産業医制度による認定単位(全日参加の場合、最大で更新1単位、実地1単位、基礎・後期または生涯・専門3単位を取得可能の予定)を申請中です。
日本産業衛生学会看護職継続教育システム・実力アップコースの認定単位を申請予定です。

第13回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会



鎌田 隆 (静岡産業保健推進センター)

メイン・テーマに「多彩な健康管理の課題と展望」を掲げて第13回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会は、平成15年10月17日(金)18日(土)にアクトシティ浜松で開催された。全国から多くの方に来ていただくために目玉になるものは何かないかと準備検討会(平成14年1月)に浜松の企業見学を提案し、その後の企画運営委員会で賛同をいただき5ヶ所の施設見学を実施した。了承していただいた機関には大変ご迷惑をかけましたが、172名の方が参加され非常に好評でした。ありがとうございました。今回の全国協議会の参加者は418名で、医師(歯科医師を含む)197名、看護職160名、技術専門職・衛生管理者等61名であった。東海4県の参加状況は202名で残りは全国各地から参加された方で事実上の全国協議会ができてよかった。

初日は午後から施設見学を終え、開会挨拶の後、静岡県立大学名誉教授・小國伊太郎氏の「緑茶とがん予防」についての特別講演があった。緑茶の成分は、カテキン類(お茶の渋み)、カフェイン、ビタミンC等あり、その生体調節機能は発がん抑制作用、抗腫瘍作用等がある。緑茶生産地の大井川および天竜川上流地域の男女共に胃がんの標準化死亡比が著しく低く又、ピロリ菌活性の低下がみら

れる。これは緑茶生産地の人は茶葉を頻繁に取り替え緑茶を高頻度に摂取しているのかテキンを1日1~1.5g摂取しているという研究成果を発表された。ワークショップは2会場で「産業保健における職域と地域のネットワークを考える」と「産業口腔保健の現状と課題について」が討論された。個人レベルの交流が関係機関の連携につながるため、その仕組み作りが必要である(座長)。歯科医師会の8020運動は生きるエネルギーの源になると強調された。

2日目は、産業医部会総会で17名の日本産業衛生学会専門医の認定証が授与された。特別報告は「災害における産業医の役割」について阪神・淡路大震災時の医療経験と平常時からの基本的な訓練が重要であると発表された。「深夜業・夜勤交代勤務者の健康生活への支援については枠にはまった考えだけでなく専門職としてどんな支援が出来るかを考える必要があると話された。ポスターセッションは27演題が展示されグループごとに説明・質問があり活発であった。産業医が発表したポスターを対象として産業医部会長賞が贈られた。メインシンポジウムは「これからの産業保健専門職と産業保健活動」の標題で産業医部会幹事山田誠二氏、産業看護部会長河野啓子氏と産業衛生技術部会長中明賢二氏の3人にご講演をお願いした。3部会の代表が一堂に会し、フロアーからも討論に参加していただき2日間にわたる協議会を終えることができた。詳細に内容を書けなかった事をお詫びします。(社福)聖隷福祉事業団、事務局を担当いただきました坂元富美夫氏に心から感謝申し上げます。

プログラム

10月17日(金)

- 12:15~16:00 施設見学① ①静岡産業環境センター都田研究所/
②環境衛生研究所コース
- 施設見学② 本田技研工業株式会社浜松製作所
葵町工場「Do you have a Honda?」
- 施設見学③ (社福)聖隷福祉事業団「聖隷三方原福祉タウン」
- 施設見学④ ヤマハ株式会社「グランドピアノができるまで」
- 16:00~ 開会挨拶
- 16:20~17:30 特別講演「緑茶とがん予防」
～健康づくり・疾病予防に役立つ/産業医・産業看護職のために～
講師 小國伊太郎(静岡県立大学名誉教授)
座長 白田多作夫(聖隷保健事業部)
- ワークショップ①「産業保健における職域と地域のネットワークを考える」
～静岡県における連携の方向性～
パネラー
行政、産業保健推進センター、産業医、看護職 等予定
座長 倉田 千弘(ヤマハ健康管理センター)
秋山 泉(東レ織三島工場 健康管理室)
- ワークショップ②「産業口腔保健の現状と課題について」
パネラー
「海外派遣労働者の口腔保健管理」 桜庭 幸夫(日本歯科医師会 産業保健委員会)
「地域歯科医師会の立場から」 大久保満男(静岡県歯科医師会)
「開業歯科医師の立場から」 青山 行彦(静岡県浜松市開業)
座長 吉田 直樹(静岡県立大学短期大学部)
- 19:30~ 懇親会(会場:オークラクトシティホテル浜松)

10月18日(土)

- 9:10~10:10 産業医部会総会・産業看護部会総会
- 10:15~11:45 特別報告①「災害における産業医の役割」
報告者 石井 昇(神戸大学医学部)
道家 義和(中部電力 浜岡原子力発電所 浜岡診療所)
座長 井谷 徹(名古屋市立大学医学部)
- 10:15~11:45 特別報告②「深夜業・夜勤交代勤務者の健康生活への支援」
報告者 佐々木 司(労働科学研究所)
佐藤 久美(三井化学株式会社市原工場)
座長 武藤 繁貴(聖隷健康診断センター)
青山 京子(静岡県金属工業健康保険組合)
- 12:00~13:00 ランチョンセミナー①「歯周病と全身疾患との関係について」(サンスタール編)
吉成 伸夫(愛知学院大学歯学部)
ランチョンセミナー②「インターネット食事指導による生活習慣病の改善」(旭化成編)
「情報機器を用いた地域医療連携を介する食事指導法の開発」
戸田 和正(聖マリアンナ医科大学病院)
「企業における情報機器を用いた食事指導による生活習慣病一次予防」
今里 元師(旭化成健康診断センター)
座長 亀谷 学(聖マリアンナ医科大学)
- 13:00~14:10 ポスターセッション(発表)
- 14:30~16:30 メインシンポジウム「これからの産業保健専門職と産業保健活動」
～産業医、産業看護職、産業技術職の立場から～
シゴジスト 山田 誠二(松下産業衛生科学センター)
河野 啓子(東海大学健康科学部)
中明 賢二(麻布大学環境保健学部)
座長 鎌田 隆(静岡産業保健推進センター)
吉田 勉(藤田保健衛生大学医学部)
杉本日出子(豊田工機安全衛生推進室)



平成15年度 東海地方会学会について



小野雄一郎(藤田保健衛生大・医・公衛)

平成15年11月29日(土)、藤田保健衛生大学において地方会学会を開催させて頂きました。当日は、小雨日和にもかかわらず144名の方にご参加頂き、どうも有難うございました。

午前中の一般発表では、VDT作業の健康影響・健康管理方法、蓄積的疲労状態の評価法、作業関連運動器障害に関わる実験研究・症例研究、室内汚染物質発生源の検討、飲酒の遺伝毒性、就労者の睡眠問題・生活習慣病に関する職場調査・対策などのテーマで15題の意欲的な発表が行われました。

午後の特別講演では、宇都宮大学工学部教授・横浜市大整形外科客員教授・洗足学園音楽大学客員教授の酒井直隆先生から「音楽家の作業関連運動器障害」のテーマでお話を頂きました。先生は、多数の専門的音楽家の作業関連運動器障害を整形外科の立場から長年にわたって診療され、本分野におけるわが国の第一人者として活躍して来られました。本講演では、楽器の操作特性、ピアニストの障害と歴史的背景、手の動作解析など、臨床医学・疫学的知見のみならず、比較文化人類学的観点にまで及ぶお話をされ、産業保健分野の今後の取組み方に関して聴衆に大きな示唆を与えて頂きました。

続いて、シンポジウム「睡眠に関わる産業保健のあり方を考える」では4題の発表と全体討論が行われました。最初に「産業保健から見た睡眠」について私が導入的な話をさせて頂き、次に「勤務

編成の睡眠への影響」の題で産業医学総合研究所の高橋正也先生から不規則勤務の睡眠影響対策や最新の国際的学問動向のお話を頂きました。愛知淑徳大学教養教育センター・北林病院の太田龍朗先生からは「過眠性睡眠障害と就労」について、生体リズム中枢や睡眠物質に関する知見、睡眠障害の概要のお話を頂きました。最後に名古屋大学大学院・精神医学分野の尾崎紀夫先生から「就労と睡眠覚醒の問題をいかに考えるか」と題して向精神薬の眠気・作業能力への影響や職場の精神的問題への対応を中心にお話頂きました。全体討論では就労者の睡眠に関する多様な課題について活発で有意義な議論が行われたと感じました。



第8回 産業衛生技術部会大会



土屋 博信 (名古屋市衛生研究所)

2003年10月29日(水)に本学会産業衛生技術部会の第8回全国大会が名古屋市中企業振興会館において開催された。2001年春の部会発足後初めて東海地方会が担当する全国大会であり、本地方会の部会員30名弱で、日常活動も立ち上げていない状況で当初は開催を危ぶむ感があった。しかし、本学会の伝統というか、東海地方会の特徴というか、その状況を心配した学会員が部会の壁を超えて集まり、開催1年前の第1回準備会にこぎつけ、大会テーマ「職場改善へのサポート」を決定した。企画運営委員長の熱意と人徳で無理をお願いした講演者やシンポジストの手前、心配された参加人数も会場定員140名とほぼ同じ、139名の参加受付があった。大会内容は「プログラム」に示す教育講演は、シンポジウムともに問題点を提起するだけでなく、解決法をも提示する点が共通し、それが参加者の満足感を高めたと思われる感想が寄せられている。また、昼休みに「焼却炉解体方法」の解説ビデオの放映を繰り返し、参加者に何かを感じ取ってもらおうという企画もあり、画面の前には常に数名の方が熱心に議論しており、大会後教育に利用するための貸出依頼があった。この大会の盛り上がり来春の名古屋での学会を通して技術部会の日常活動の盛り上がりへとつないでいかなければならない。

【プログラム】

- 【午前】
- 10:00～ 開会挨拶
中明 賢二部会長、土屋真知子企画運営委員長
- 10:10～11:00 教育講演1:「職業性腰痛・頸肩腕障害予防の国際的動向」
井谷 徹先生
(名市大・院・医、労働・生活・環境保健学分野)
座長 中明 賢二先生(麻布大・環境保健学部)
- 11:10～12:00 教育講演2:「化学物質対策の現状と課題
—特にダイオキシンに関して—」
宮田 秀明先生(摂南大・薬学部)
座長 那須 民江先生
(名古屋大・院・医、健康社会医学)

【昼休み】

12:00～13:30 会場にてビデオ放映「焼却炉解体現場の現状」
(鹿島建設)

【午後】

- 13:30～16:45 シンポジウム
「法律遵守型から問題解決型職場改善へのステップアップ」
座長:土屋真知子先生・城 憲秀先生
1. 作業環境の職場改善事例 新谷 良英先生(大同病院)
 2. VDT作業改善のサポート
宮尾 克先生(名古屋大・情報連携基盤センター)
 3. 労働衛生におけるエルゴノミクスの活用
加藤 隆康先生(トヨタ自動車)
 4. 職場巡視を契機とした作業改善
櫻井 照彦先生(本田技研工業 鈴鹿)
 5. 自主対応による作業改善 酒井 一博先生(労働科学研究所)

(指定発言) 吉田 勉先生(藤田保健大)・田中 勇武先生(産医大)



学会・研究会

第59回職場ストレス研究会

渡邊美寿津 (愛知医大・医・衛生)

「メンタリングプログラムによるストレス対策」をテーマに、第59回職場ストレス研究会が平成15年9月17日(木)に開催されました。今回は、慶應義塾大学教授の渡辺直登先生に、経営学、組織心理学の立場から話題提供をいただき、財政的な余裕がない企業におけるメンタルヘルス対策の一方方向性を示すメンタリングについて、その概念、構成、効果を踏まえ、具体的な役割、プログラムの展開、問題点、今後のメンタルヘルス対策への導入の可能性について、非常に解りやすくお話しいただきました。メンタリングとは、「経験豊かな年長者(メンター)が若年で未熟人(プロテジェ)に対し、基本的に1対1で、継続的・定期的に交流し、信頼関係の構築を通じて、プロテジェのキャリア的、心理・社会的な成長を支援すること」を意味します。この関係を自然派生的ではなく、事務局がマッチングし決定するという、公式化された同手法を用いた研究成果(メンタリング行動とプロテジェ経験の効果)や具体的導入事例の提示は、今後、メンタリングプログラムが、組織の人材育成・活用、組織活力の向上につながる方法としてだけでなく、組織内の「関係性」(developmental relationships)を構築する上でも、非常に有意義なものであり、着目されるべきものであることを感じさせるものでした。最後に、「メンタリング-会社の中の発達支援関係」(白桃書房、渡辺直登訳)をご紹介します、今回の報告とさせていただきます。

第60回職場ストレス研究会

小林 章雄 (愛知医大・医・衛生)

第60回職場ストレス研究会は平成15年11月19日(水)興和紡績ビル11Fホールで行われた。今回は、職業性ストレス研究の著名な国際的リーダーのお一人であるデンマーク国立産業保健研究所のTage Kristensen教授に「職場ストレス対策の原則と実際」というテーマで

ご講演いただいた。前半では、職場における介入研究の原則と意義、後半では、Copenhagen Psychosocial Questionnaireという質問紙調査票を用いた職場でのストレス対策、またその調査票を使って対策を進める上でのいくつかの原則をまとめた「ソフトガイドライン」について解説していただいた。資料としてKristensen教授のプレゼンテーション・コピー、「ソフトガイドライン」の日本語訳資料等を配布した。職場でのストレス研究(対策)においては、その結果のみではなくプロセスをしっかりと評価することの重要性を強調された。また、ソフトガイドラインをめぐる質疑討論では、労働組合の組織率が95%に達するデンマークとは少し異なった独自のガイドラインの必要性が示唆された。Kristensen教授は、「活発で率直な討論ができて大変楽しく刺激を受けた。名古屋に来て良かった」と満足しておられた。通訳を交えての2時間余は少し短くも感じられたが、意義深いものとなった。参加者は43名、今回は産業医の先生方が多いように見受けられた。

これからの諸行事予定

1) 地方会関連学会・研究会等

①職場ストレス研究会

第61回

日 程：2004年2月18日(水) 14:00-16:00

会 場：名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

テーマ：女性労働者のストレスとストレスコーピング

講 師：足立はるゑ、異 あさみ(藤田保衛大)

2) 本部関連学会・研究会等

①日本産業衛生学会産業看護講座 実力アップコース

(1)第4回

日 程：2004年1月30日(金)～31日(土)

会 場：飯田橋レインボービル 1階A会議室

(東京都新宿区市谷河原町11 TEL:03-3260-4791～3)

対 象：①日本産業衛生学会産業看護師の登録者

②2日間続けて出席できる方(遅刻厳禁)

②日本産業衛生学会産業看護講座基礎コース第7回(前期・後期)

日 程：後期2004年2月19日(木)～21日(土)

会 場：日本教育会館

(東京都千代田区一ツ橋2-6-2 TEL:03-3262-7661)

定 員：120名

<p>財団法人 愛知健康増進財団 会 長 安 部 浩 平 理事長 土 井 寛 己 診療所長 小 倉 幸 夫 〒462-0844 名古屋市北区清水1-18-4 TEL(052)951-3331(代)</p>	<p>謹 賀 新 年</p> 	<p>医療法人 愛知集団検診協会 愛知健診所 〒496-0048 津島市藤里町2-3-1 TEL (0567) 26-7328番 FAX (0567) 26-7994番</p>
<p>厚生労働大臣認可 社団法人 オリエンタル労働衛生協会 会 長 岡 田 邦 彦 理事長 岩 塚 徹 〒464-0850 名古屋市千種区今池一丁目8番4号 TEL (052) 732-2200</p>		<p>財団法人 岐阜県産業保健センター 理事長 籠 橋 久 衛 診療所長 加 藤 保 夫 〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3 TEL(0572)22-0115</p>
<p>医療法人 光生会病院 〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地 TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407</p>		<p>財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津第一クリニック 聖隷沼津健康診断センター 所長 福 田 崇 典 〒410-8580 沼津市本字下一丁目895-1 TEL(055)962-9882 FAX(055)952-1019</p>
<p>(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷健康診断センター 所長 大 條 浩 〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501</p>		<p>(社福) 聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター 所長 白 田 多 佳 夫 〒433-8558 浜松市三方原町3453-1 TEL(053)439-1111</p>
<p>社団法人 瀬戸健康管理センター 理事長 加 藤 庄 右 診療所長 坪 井 靖 治 〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地 TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466</p>		<p>健診健康総合サービス (財) 全日本労働福祉協会東海支部 支部長 小 浜 尚 〒457-0044 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525</p>

- 対象：(1) 保健師で産業看護の実務経験2年以上
 (2) 看護師(厚生労働大臣免許)で産業看護の実務経験2年以上かつNコース(短縮Nコース)の全課程修了者
 (3) (1)(2)の該当者で前・後期とも各3日間連続出席できる方
- 3) その他の学会・研究会等
 ①Premus2004
 (Prevention of Workrelated Musculoskeletal Disorders)
 日程：2004年7月11日(日)～15(木)
 会場：Swiss Federal Institute of Technology Zurich
 (スイス国立チューリッヒ工科大学)
 ホームページ：http://www.premus2004.ethz.ch
- ②国際シンポジウム
 「中小企業およびインフォーマルセクタにおける産業保健」
 日程：2004年11月12日(金)～11月15日(月)
 会場：名古屋国際会議場 国際会議室ほか
 メインテーマ：中小企業産業保健活動の成功事例から学ぶ
 主催：ICOH中小企業およびインフォーマルセクタ産業保健科学委員会
 名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野
 後援：日本産業衛生学会中小企業安全衛生研究会

- 11) 第8回産業衛生技術部会大会準備状況報告12) 関連学会・研究会開催報告 13) 今後の関連学会・研究会等 14) その他
- C. 協議事項
 1) 「地方会総会並びに研修会」の開催方法について 2) 地方会3部会について 3) その他

会員の異動

(2003/9/1～2003/9/30)

- 新入会** 愛知 ①磯部里美(社会保険事業団) ②岡部えり子(佐織町保健センター) ③高田直美(佐織町保健センター) ④丹羽恵子(津島保健所) ⑤水野金一郎(愛知健康増進財団) ⑥矢部誠一郎(トヨタ自動車) 静岡 ①田中まゆみ(富士通)
- 退会** 愛知 ①近藤小百合(日商岩井) 岐阜 ①篠田圭司(篠田製作所) ②藤田節也(三菱電機中津川)

編集後記

ニュースの編集会議は、名大鶴友会館の3階の和室で夕方の18時30分(6回/年)に始まる。毎回8～10人程度の出席で、サンドイッチと缶コーヒーをとりながら、ワンパターンの雰囲気では進んでいく。私は第1号からの20年間の編集委員で、出席率は良い方であるが、これは帰りのJR沿線故の寄りの参加のためである。従ってニュースソースも持たず、谷脇編集委員長(大変なご苦労)の原案に対して、思いつきに近い発言をするだけであり、会にとってはあまり有益な存在ではない。しかし日常業務に追われ、産業医学の最近の動向に疎い私にとっては、格好の息抜きと情報入手の場であり、こうしたアフターファイブの会も悪くないなと思っている。(加藤 保夫)

次回発行 平成16年5月1日
 編集責任者 谷脇 弘茂(藤田保衛大)

編集委員(五十音順)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 市原 学(名大) | 井奈波良一(岐大) |
| 加藤保夫(岐阜県産業保健センター) | 後藤門治郎(住友軽金属) |
| 五藤雅博(旭芳災病院) | 後藤義明(ブラザー工業) |
| 榊原久孝(名大) | 住吉健一(旭化成富士) |
| 高崎正子(東芝四日市) | 城 憲秀(名市大) |
| 巽あさみ(藤田保衛大) | 寺澤哲郎(UFJ銀行) |
| 長岡 芳(藤田保衛大) | 松田 元(松下電工四日市) |
| 山本忠雄(愛知県津島保健所) | 武藤繁貴(聖隷健診センター) |
| 山田琢之(名古屋労働性コンサルタント) | 吉田 勉(藤田保衛大) |
| 渡邊美寿津(愛知医大) | |

地方会理事会

平成15年度 第3回理事会
 日時：平成15年9月20日(土) 10:00～
 会場：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室
 出席：32名 欠席：23名
 A. 前回理事会議事録の確認

- B. 報告事項
 1) 本部報告事項 2) 産業医部会幹事会報告事項 3) 産業看護部会幹事会報告事項 4) 産業衛生技術部会幹事会報告事項
 5) 地方会事務局報告事項 6) 平成15年度地方会学会準備状況報告 7) 平成16年度地方会総会並びに研修会準備状況報告 8) 地方会ニュース編集状況 9) 第77回日本産業衛生学会総会準備状況報告 10) 第13回産業医産業看護全国協議会準備状況報告

<p>財東海検診センター 理事長 宮崎 勘治 診療所長 斉藤 俊二 〒410-0003 沼津市新沢田町8-7 TEL (055) 922-1157 FAX (055) 923-5078</p>
<p> 名古屋市医師会協同組合 名古屋市医師会健診センター 理事長 丹羽 巽 〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目18番14号 名古屋市医師会協同組合ビル TEL (052) 937-8425 FAX (052) 937-7894 http://www.nagoya-ikyuu.or.jp</p>
<p> 医療法人 大医会 日進おりど病院 〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地 TEL 0561 (73) 7771 FAX 0561 (73) 6140</p>
<p>社団法人 半田市医師会健康管理センター 所長 榊原 幹雄 〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881</p>
<p>財団法人 全日本労働福祉協会 東海診療所 会長 濱島 義博 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目27番2号 日本生命笹島ビル6階 TEL(052)582-0751 FAX(052)582-6968</p>

謹賀新年
平成十六年元旦

<p>医療法人 九愛会 中京サテライトクリニック 理事長 宮 嶋 忍 〒470-1101 愛知県豊明市香掛町石畑180番地の1 TEL (0562) 93-8225(代) FAX (0562) 93-0938</p>
<p>(医) 豊昌会 豊田健康管理クリニック 理事長 加藤 昌平 〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2 TEL (0565) 27-5550 FAX (0565) 27-5036</p>
<p>財日本予防医学協会 東海地域センター (健康フォーラム名古屋談話室) 〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 TEL (052) 931-0526 FAX (052) 932-7092</p>
<p>(医) 卓和会 しらゆりクリニック 理事長 由 利 卓 也 〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL 0533-86-1515</p>
<p> 医療法人 名翔会 名古屋セントラルクリニック Nagoya Central Clinic 〒457-0047 名古屋南区城下町 3 丁目14番地 TEL (052) 821-0090 FAX (052) 824-0655</p>